

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

# さっぽろ 市議団ニュース

<第3回定例会>

2015年10月21日

No. 141

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 高すぎる国保料の引き下げ、資格証の発行やめ必要な医療を 保証する窓口対応を

池田由美議員が質問

日本共産党の池田由美議員は16日、決算特別委員会で国民健康保険料の引き下げや資格証明書の発行などについて質問しました。

池田議員は、国民健康保険の運営が2018年度から都道府県に移行する問題で、「保険料軽減のくり入れが削減される懸念があるが、一般会計からのくり入れは堅持するのか」「国保料が高く負担感は大きいと認識している」というのであれば、その解決の立場に立つべき」「毎年生じている不用額(※)を基金として積み立て保険料引き下げに活用してはどうか」と求めました。

岩井保健福祉部長は、都道府県移行後のくり入れについて「申し上げる段階ではない」といい、基金への積み立ては「国保会計だけでは考えられず、市全体の予算のなかで判断されるべき」とのべました。

つづいて池田議員は、資格証明書の発行が2014年度、9,517世帯に上ると指摘。心筋梗塞で入院するよう診断された男性は、窓口で「まずお金を払ってもらえないと保険証は出せない」とわれたという事例を紹介、「身体のことよりもお金の話を優先させるのか」「資格証のまま病院にかからざるをえなかった場合、病院からの通報で保険証を発行するのか」とたどしました。

岩井部長は、「丁寧な対応」に努めているとしつつ、事例には「それぞれのケースがあり具体的な答弁は困難」「病院から通報があった場合など、やむをえない事情がある場合は医療の必要性があると判断される」とのべました。

(※)「不用額」～国保料を引き下げるために、毎年一般会計から予算をくり入れていますが、市がかかげる平均保険料(約15万円)を維持する分だけくり入れ、残りは「不用額」として一般会計に戻しています。

## 公園トイレのバリアフリー化、トイレトペーパー設置を

平岡大介議員が質問

日本共産党の平岡大介議員は16日、決算特別委員会で公園トイレのバリアフリー化や洋式化、トイレトペーパーの設置を求めました。

平岡議員は、「公園は子どもの遊び場であり高齢者をはじめ市民の憩いの場、夏祭りなど地域の交流の場であり災害時の避難所でも」と強調し、「高齢者や障がい者にとってトイレがバリアフリーや洋式となっているかは切実な問題」と指摘。公園トイレのバリアフリー化は現在249カ所(34%)で、2020年までの市の目標は334カ所(45%)に過ぎないと、高年齢化がすすむなかで急がれているのではないかとたどしました。また、清潔な公園トイレが望まれていると、トイレの清掃は週に1、2回とされているが安全確保や見回りという観点からも増やすべき「観光都市札幌というのであればトイレトペーパーを設置すべき」と求めました。

長谷川緑の施設担当部長は、「トイレの改修には多大な費用がかかり利用の多い大規模な公園からすすめている」、清掃回数を増やすことやトイレトペーパーの設置は、費用や盗難など管理の問題があり「難しい」とのべました。